

WalkOn 短下肢装具“購入”始末記

仙台ポリオの会 小関理

脊髄梗塞で右下肢が不自由になって 17 年、病・加齢と運動不足のため平地を歩くときにも引っかかるようになり階段の上り下りも不安になってきました。その上、右足親指が曲がりすぎ痛めてしまいました。そこで足底板を作ってもらうことになりました。2017 年のことです。

そして今年 4 月、仙台ポリオの会の講演会で今年度からカーボン補装具が自立支援医療で手に入れられることになったことを知りました。

宮城県リハビリテーション支援センターでの定期検診時、樫本先生に医療講演会で紹介された既製品のカーボン補装具について聞いてみました。それからがとんとん拍子でした。佐々木義肢に連絡、次月に医療講演会のスライドで見た WalkOn のサンプルを持ってきていただくことになりました。

さて当日、“軽い！強い！”それが第一印象です。

装着した感じ・・・“ム！結構いけるかな？”数歩あるいて“反発がほどよい”

数分後、“これ欲しい”と思うことになりました。

佐々木義肢さんから一週間借りることになりました。いままでの足底板を外し WalkOn を入れます。マジックテープでふくらはぎのちょっと上を止めて準備完了。入れた側がちょっと高い気もするが歩きやすそう、反発が心地よい。一週間後、注文しました。

さて、2 週間後注文した 28U23WalkOn®Trimable 製品が来ました。くるぶしの内側が少しあたるのと足首の後ろ側の隙間が空くことを伝え、縦方向の傾きの調節・つま先を詰めることの修正をお願いしました。

さて、早速市役所で申請手続きです。担当医が宮城県リハビリテーション支援センター樫本先生なのでスムーズに進みました。一月ぐらいたった頃、市役所から連絡が来ました。早速、佐々木義肢に連絡、受け取って来ました。試着？してから3ヶ月ぐらいの時間で手に入れることが出来ました。

それから3ヶ月使ってみての感想を書いておきます。まず、5mm 大きなサイズの靴になりました。やはり高さというか厚さが足りず“甲高の足+装具の厚み”には合わなくなり、しびれが出てきたからです。一番嬉しいことは“走ることが出来る”ようになったことです。材質の強さと反発力が弛緩した足首の力を補って地面を“蹴って”くれるようになったからです。カーボンはすごい！ところが困ったことに装具を外すと“よろける”事があることです。外を歩く時、相当装具に頼っているのでしょう。建物の中ですので、それ程危険ではないのですが何とかならないものかと思えます。

使用し始めて3ヶ月のまとめです。

良かったこと、長く歩けるようになった事、走ることが出来るようになった事そして車の運転がしやすくなったことです。

ちょっとした問題点、装具を外した時ふらついたりすること、外したあと皮膚や筋肉に違和感が残る

こと、装具を着ける前のことを忘れてしまったので何ともいえないが、不思議な感覚です。もう一つ、材質がカーボンなので堅い。車から降りる特にサイドシルにぶつけると傷が付く、ズボンの裾が破れる等の事件が起きています。

ドイツ製の優れものだと思って自慢していましたが、最近タグに made in China の文字を発見してもやもやしております。

このタグに Made in China と書いてあった



予備の結束バンド

オプションのバンド